

令和2年度 宜野湾市の 教育



志真志小学校新校舎と落成式



市章

市章は『ギノ』を図案化したもので「ギ」で躍進の翼を形どり、円で湾を表わし、協力の輪と平和を表わす。

1967(昭和 42)年 6 月制定

健康都市宣言

宜野湾市の全市民が明るく、美しく、豊かな環境の中で心身ともに健やかな合理的生活がいとなめる健康都市建設に市民の総力を結集し、その推進をはかるため宜野湾市を健康都市とすることを宣言する。

1964(昭和 39)年 7 月 1 日

健康都市建設市民の誓い

わたしたち宜野湾市民は健康都市宣言の本旨を高揚し、明るく、美しく、豊かな住みよい健康都市を建設するために、次の事項の実現に努力することを誓います。

推進目標

- 1 丈夫な体を育てましょう。
- 1 りっぱな市民になりましょう。
- 1 交通道徳を高めましょう。
- 1 暮らしの向上をはかりましょう。
- 1 明るく美しいまちにしましょう。

はじめに

グローバル化や情報化の進展、少子高齢社会や地域コミュニティの希薄化、子どもの貧困問題等、教育をめぐる環境が大きく変化する中で、複雑・多様化する地域課題や市民ニーズの高まりとともに、学校教育や社会教育等、教育行政の充実が、これまで以上に求められております。

このような中、宜野湾市教育委員会においては、「宜野湾市教育振興基本計画(平成28年度～令和2年度)」に基づき、「学び合い、未来を切り拓く人材の育成」を基本理念に、「学校教育における知・徳・体のバランスのとれた生きる力の育成」、「地域ぐるみで子どもの教育に取り組むための連携と学びを保障する教育環境の充実」、「市民の生涯をととした学びの推進と伝統文化の継承・発展」など「学び」と「つながり」を視点に各施策を推進しております。また、現計画の最終年度にあたり、これまでの施策の点検・評価を行い、新たに「第二次宜野湾市教育振興基本計画」の策定を行うことで、今後とも内容の見直しと計画の強化に、より一層努めてまいります。

学校教育においては、「地域協働学校」いわゆるコミュニティ・スクールを、市内全ての小中学校に導入し、地域とともにある学校づくりの実現を目指してまいります。また、早急な対応が求められる学校のICT化については、「宜野湾市GIGAスクール構想推進プロジェクト・チーム」を設置し、一人一台端末や通信ネットワークの整備を加速させてまいります。

学校施設については、大謝名小学校屋内運動場・水泳プール増改築事業や、老朽化が懸念されま

ず普天間小学校校舎増改築事業を進め、計画的な校舎の耐震化に取り組んでまいります。

文化行政については、文化財の整備や博物館サービスの充実に取り組み、地域アイデンティティの継承や歴史と文化の啓発に努めてまいります。

教育の力が、地域社会の発展に大きな影響力を持つ歴史に学び、教育の「普遍性、時代性、地域性」の三つのスタンスで教育的環境の優位性を活かし、教育行政の充実に努めてまいります。

「宜野湾市の教育」は、教育行政、学校教育、教育施設等12項目に分けて編集しました。ご高覧ください、本市教育行政の推進にご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

令和 2年 9月

宜野湾市教育委員会

教育長 知念 春美

目次

はじめに	
宜野湾市の位置と地勢	- 1 -
宜野湾市の沿革	- 1 -
I 教育行政	
1. 教育行政	- 2 -
2. 教育財政	- 19 -
3. 育英会事業	- 21 -
4. ぎのわん教育の日	- 23 -
II 学校教育	
1. 宜野湾市の学校教育	- 24 -
2. 学校教育状況	- 26 -
III 教育施設	
1. 基本方針	- 34 -
2. 施設配置図	- 34 -
3. 学校教育施設	- 35 -
4. 社会教育施設	- 36 -
5. 学校敷地の状況	- 37 -
6. 学校校舎の必要面積と保有 状況	- 38 -
7. 各学校施設の耐震改修状況調査 結果	- 39 -
IV 学校給食	
1. 基本方針	- 40 -
2. 重点目標	- 40 -
3. 機構図	- 41 -
4. 学校給食運営	- 41 -
5. 食育への取組	- 42 -
6. 地産地消の取組	- 43 -
7. 学校給食における食物アレルギー の取組	- 43 -
8. 学校給食の栄養量	- 44 -

V はごろも学習センター

1. 基本方針	- 45 -
2. 本年度の取組	- 46 -
3. 業務運営の効率化	- 46 -
4. 令和2年度研修係・管理係 年間事業計画	- 47 -
5. 宜野湾市教育情報化推進計画 概念図	- 48 -
6. 適応指導教室「若葉教室」の概要	- 49 -
7. 令和2年度 適応指導教室 「若葉教室」	- 51 -
8. 令和2年度支援係年間 事業計画	- 53 -
9. 令和元年度支援係年間 事業実績	- 57 -

VI 社会教育

1. 基本方針	- 59 -
2. 重点目標	- 59 -
3. 令和元年度主な事業実績	- 59 -
4. 令和2年度社会教育係事業計画	- 62 -

VII スポーツ振興

1. 基本方針	- 63 -
2. 重点目標	- 63 -
3. 宜野湾市スポーツ推進審議会	- 63 -
4. 宜野湾市スポーツ推進委員	- 63 -
5. 学校体育施設開放事業	- 64 -
6. 令和元年度事業実績	- 65 -
7. 令和元年度宜野湾市学校体育 施設開放事業（実績）	- 66 -
8. 令和元年度スポーツ少年団県外 派遣実績	- 66 -
9. 令和元年度学校体育施設開放事業 団体登録数	- 68 -
10. 令和2年度事業計画	- 69 -

VIII 文化振興

1. 基本的考え方と施策・・・ - 70 -
2. 令和元年度文化事業の実績・・・ - 70 -
3. 令和元年度文化事業共催・後援等・・・ - 71 -
4. 令和元年度 宜野湾市民会館管理運営状況・・・ - 72 -

IX 中央公民館

1. 基本方針・・・ - 75 -
2. 運営方針・・・ - 75 -
3. 最重要施策・重点目標・取組事項・・・ - 75 -
4. 令和元年度主な事業実績・・・ - 76 -
5. 令和2年度事業計画・・・ - 90 -

X 市民図書館

1. 基本方針・・・ - 92 -
2. 運営方針・・・ - 92 -
3. 重点目標・・・ - 92 -
4. 管理・運営状況・・・ - 92 -
5. 本館・・・ - 93 -
6. 移動図書館・・・ - 94 -
7. 事業計画と活動実績・・・ - 97 -

XI 文化事業

1. 基本方針・・・ - 100 -
2. 文化財の保護・活用・・・ - 101 -
3. 市史の編集・・・ - 110 -

XII 市立博物館

1. 基本方針・・・ - 114 -
2. 重点目標・・・ - 114 -
3. 施設の内容・・・ - 114 -
4. 開館日・休館日・・・ - 115 -
5. 観覧料・・・ - 115 -
6. 博物館の収蔵資料・・・ - 115 -

7. 令和2年度年間事業計画・・・ - 117 -
8. 令和元年度の活動実績・・・ - 118 -
9. 宜野湾市立博物館の運営に関する基本的方針・・・ - 122 -

資料

1. 学校長名等一覧・・・ - 125 -
2. 学校医・学校歯科医・学校薬剤師一覧・・・ - 126 -
3. 宜野湾市教育支援委員会委員・・・ - 127 -
4. 宜野湾市学校給食センター運営委員会委員・・・ - 128 -
5. 宜野湾市はごろも学習センター運営委員会委員・・・ - 129 -
6. 宜野湾市立中央公民館運営審議会委員・・・ - 129 -
7. 宜野湾市社会教育委員・・・ - 130 -
8. 宜野湾市民図書館協議会委員・・・ - 130 -
9. 宜野湾市文化財保護審議会委員 - 131 -
10. 宜野湾市立博物館協議会委員・・・ - 131 -
11. 宜野湾市史編集委員会委員・・・ - 132 -
12. 宜野湾市スポーツ推進審議会委員・・・ - 132 -
13. 宜野湾市スポーツ推進委員・・・ - 133 -

宜野湾市の位置と地勢

本市は、沖縄本島の中南部西海岸・東シナ海に面した位置にあり、北に北谷町、東に中城村、北東に北中城村、南に浦添市、南東に西原町と接している。県庁所在地の那覇市より北に 12.4km、沖縄市より南に6kmの地点にあり、市内をドーナツ状に国道 58 号線、国道 330 号線が南北に、県道宜野湾北中城線、県道 34 号線が東西にはしり、さらには沖縄自動車道の北中城インターチェンジや西原インターチェンジへもつながる交通上の重要な要所に位置する。

本市の総面積は 19.80km²で、東西 6.1km、南北 5.3km の範囲である。地勢は、海岸線の出入りが比較的少なく、珊瑚礁が発達している。地形はおおむね平坦だが、海岸線に対して国道 58 号線以東は台地となっている。市域の中央部と北側部分は米軍基地となっており、その面積は全市域の約 29.4%を占めている。また、河川は宇地泊川、浦添市界に牧港川、北谷町界に普天間川がある。

気候は亜熱帯性で四季を通じて温暖である。春から夏にかけて雨量が多く、梅雨明けとともに長い夏が続く。また、夏から秋にかけて熱帯性低気圧の進路となり台風の襲来が多くなる。

宜野湾市の沿革

本市の母体である宜野湾間切は、1671(康熙 10)年に浦添間切から我如古、宜野湾、神山、嘉数、謝名具志川(大山)、大謝名、宇地泊、喜友名、新城、伊佐の 10 ヲ村、中城間切から前普天間(野嵩)、寺普天間(普天間)そして北谷間切から安仁屋をそれぞれ分割し、大川(真志喜)を新設し 14 ヲ村をもって設立された。

1879(明治 12)年の廃藩置県後、沖縄県庁の支庁として中頭郡役所が普天間に新設され、つづいて郡教育会事務所、県立農事試験場等の官公署が設立されるなど本島中部の政治、経済、教育の中心地として活気を呈していた。

第二次世界大戦においては、本市も壊滅的な戦災を被ったが、野嵩地域が奇跡的に焼失を免れて、戦闘地域住民の収容所となり、そのため他の市町村に先んじて戦後処理作業が行われた。

その後、市内の普天間を中心に都市化が進展し、1962(昭和 37)年 7 月 1 日に市制が施行され、新生「宜野湾市」が誕生した。

市制施行後もなお、米軍基地が市の中央部に位置するため市街地は国・県道沿いにドーナツ状に発展し、特異な形態になっている。近年、那覇市の外延的な拡大に伴い、市街化が進展しつつある。さらに、沖縄国際大学、琉球大学が立地し、沖縄コンベンションセンターが整備されるなど、県内の高次都市機能の一部を担う重要な地域となりつつある。